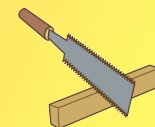


令和7年度



一生懸命



授業



八坂中学校



本校の実態

- ほとんどの生徒が、毎時間の授業に落ち着いて臨んでいます。
- 基礎的な問題・基本的な問題については、前向きに取り組み、授業内で理解できていることも多くあります。
- 家庭学習が習慣化していない生徒が多いと感じます。
- 話をきちんと聞く力、理解する力、考える力に大きな個人差があります。
- 既習事項を元に、自分の考えを文章にしたり、人に伝えたり、表現したりすることが苦手な生徒が多いと感じます。

国語

実態

日々の授業に意欲的に取り組もうとする姿が見られます。一方、自分の考えを文章で表現したり、言葉にして発表することが得意でない生徒が多いです。また、漢字を覚えることが苦手で、字を正しく書くことができません。

手だて

- ・ 単元ごとに自分の意見を短めの文章で書いたり、発表したりする時間を設け、表現する力を段階的に培っていきます。また、挙げられた意見を生徒同士で相互評価しながら、自分の意見を確立させることに自信をもたせていきます。
- ・ 毎回の授業の中で漢字を練習する時間をつくり、語彙を定着させていきます。

社会

実態

社会に対する興味関心が高く、授業に意欲的に取り組む生徒が多いです。発言が多く、話し合い活動も活発に行います。ノートを書くことに抵抗を感じる生徒もいます。定期考査の結果から、基本的な学習内容の定着と地図や資料から読み取ったことを文章で表現することが課題である生徒が多いと感じています。

手だて

社会に対する興味・関心、活発な授業態度を大切にしながら、学習内容の理解を深め、資料等から読み取ったことを文章で表現する力をつけさせます。

- ①授業中に短時間の小テストを行い、理解を深めます。
- ②考えたことや資料から読み取ったことをノート等に記入する活動を増やします。

数学

実態

計算などの基本的な内容については、前向きに取り組んでおり、授業内で理解できている生徒が多くいます。日々復習して積み上げていくことが課題です。また、計算方法を他の人に説明することや、応用して問題を解くことが苦手な生徒が多いです。

手だて

少人数授業という利点を活かし、苦手な生徒には、意図的に声をかけながら個に応じた指導を行います。また、なぜそのようにして解くのか、ということを常に考えさせ、途中の計算を大切にさせながら指導に当たります。他者の意見に触れる時間、自分の考えを発表する時間を多く設け、課題を解決する力を育みます。

理科

実態

実験やグループ活動に意欲的に取り組む生徒が多いです。真剣に説明を聞き、一生懸命に取り組んではいますが、「どのような行動をしたら実験を安全にできるか」「どのような条件で実験をしたら知りたいことが分かるか」など、先を見通して考えることが苦手です。また、計算が出てくる内容が苦手な生徒が多いです。

手だて

対話的な活動を多く取り入れ、理解を深めることにつなげていきます。また、ただ実験を行うのではなく、実験前に「考える」時間を確保し、先を見通した行動や計画ができるような指導を行います。計算を扱う内容については、つまずきを減らせるように、スモールステップを踏みながら演習を丁寧に行っていきます。

音楽

実態

授業内では活発に歌唱しようとする様子が見られます。課題は、体育館のような広い空間で歌唱する場面で、響きのある歌声が出せないことです。器楽の学習では、ゆっくりと丁寧に楽器の練習に向かう落ち着いた学習態度が見受けられます。

手だて

呼吸法を生かした発声が身につくように指導をします。声のスピードがつくようにボイストレーニングをして遠くまで届く発声ができるような練習をします。アルトリコーダーの学習では、個々に応じたペースで練習に取り組めるような時間づくりをします。

美術

実態

中学校では、造形的な視点の理解や計画的な制作が必要になるが、小学校では、身に付いていないため、まずはその基礎基本の習得を図る指導をします。授業のルールを守らせ、達成感のある内容としっかりした授業規律を確立します。

手だて

わかりやすく、誰でもできる内容からスタートさせ、スモールステップで学習を進めます。作品制作では、完成後に十分な鑑賞とプレゼンテーションの時間を確保します。
常に授業規律が守られるように指導を継続していきます。

保健体育

実態

体を動かすことが好きで意欲的に取り組む姿勢が見られます。また、お互いの学びを助け合い教え合おうとする姿勢も見られます。さらに主体的に課題の解決ができるように、学習した知識や技能を活用しながら練習したり改善すべきポイントを探したりすることができると良いです。

手だて

グループの人数や練習の進め方を工夫し、練習や試合に意欲をもって取り組めるようにしていきます。また、タブレット端末を使用し、体の動かし方や運動の行い方の実践例を分かりやすく示し、繰り返し粘り強く取り組むことができるようにしていきます。

技術・家庭

実態

- ・技術科では、授業に意欲的に取り組む姿勢が見られます。ただ、経験不足による理解の差もあり、作業の進め方や作品作りに支障がある場合があります。
- ・家庭科では、授業が好きで前向きに取り組む姿があります。ただ技術面の差があり苦手な生徒には時間をかけたり、工夫し創造する力を高める必要があります。

手だて

- ・技術科では、個別指導を細やかに行い、授業時間だけでは足りない生徒に対しては、放課後や長期休業中を使って対応しています。失敗してもフォローが出来る体制を整えます。
- ・家庭科では実践的な学習活動を多くし、製作等が苦手な生徒にはグループ学習等で互いに教え合う形態を取り、過去の作品を通して製作のヒントを見付けます。

英語

実態

対話や発表などの活動では、積極的に自分のことを表現しようとする姿勢が見られます。

基礎的な文法や語彙の定着について課題があり、英語を正しく書く活動やテストにおいて苦手意識をもつ生徒が多いです。

手だて

引き続き、対話や発表の活動は多く取り入れつつ、即興的に話すことができるような活動を増やしていきます。

教科書の基本文を書く課題を出し、スペリングコンテストや文法理解度を測るテストをこまめに行い、基礎的な文法や語彙の確実な定着を図ります。